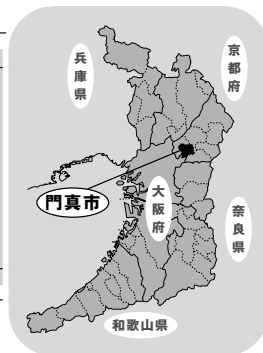


わたしのまちのPR

門真市編



門真市は大阪府の東北部に位置し、大阪市、守口市、寝屋川市、大東市に隣接しています。市域は東西4.9km、南北4.3kmで、面積は12.28km²です。

昭和38年8月1日、人口66,582人をもって市制を施行し、大阪府内で27番目の市として発足しました。

市内には、中央部を東西に国道163号が横断し、西部を南北に府道大阪中央環状線や近畿自動車道が縦断しており、門真市の産業発展に大きな役割を果たしています。また、北部を京阪電車が走り、市内には西三荘、門真市、古川橋、大和田、萱島駅、南部には地下鉄長堀鶴見緑地線の門真南駅、西部には大阪モノレール門真市駅と7つの駅があり、主要道路には、京阪・近鉄のバス網があるなど、交通の便に恵まれており、産業都市として、東大阪工業地帯の重要な位置を占めています。

また、平成22年春には第二京阪道路が南部地域中央に開通予定であり、さらなる発展が期待されています。

この門真市の魅力や特色について、総合政策部企画課長の水野さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願いいたします。
早速ですが、門真市の歴史を教えてくださいませんか。

よろしく申し上げます。

門真に人々が住み始めたのは今からさかのぼること約3500年前で、平成元年に市の西部「西三荘遺跡」の発掘調査で発見された縄文時代後期の土器から明らかになりました。

市の東部「大和田遺跡」では弥生時代の銅鐸3個が

出土し、市の南部「三ツ島遺跡」では全長10mを超える巨大な「くり舟」も見つかっており、門真市域がかなり古くから発達してきたことがうかがわれます。

古代、淀川は現河道より南方の旧茨田郡の中央を流れていました。「古事記」「日本書紀」には仁徳天皇が低湿地帯であったこの地方を淀川の氾濫から守るため、「茨田堤」を渡来人に築かせたと記されており、このおかげで農耕文化が急速に発展しました。そのなごりが宮野町に残存し、「伝茨田堤」は大阪府指定史跡として、水との戦いの歴史を今に伝えています。

江戸時代には川の流れも定まり、豊かな水郷農村として近世集落が形成され、「段蔵※」などの人々の知恵と工夫が生み出されました。

本市では、こうしたまちの歴史や文化に触れていただくための施設として、昭和63年に歴史資料館を開館しました。平成4年に併設された収蔵庫棟は、段蔵の外観をしています。歴史資料館では、門真市域で今日までに発掘された考古資料をはじめ、近年失われつつある民具や農機具、古文書など、門真の歴史に関する資料を展示公開する他、企画展や、歴史文化講座を開催しています。

※段蔵：淀川下流域の低湿地に見られる蔵で、切石の石垣を5～10段程度積み上げた上に建てられ、内部は2階あるいは3階の構造。水害から家財を守るために建てられた。

伝茨田堤



歴史資料館



まちの歴史を知ることができる貴重な歴史遺産ですね。

そのほかに有名な文化財などはありますか。

京阪電車の古川橋駅と大和田駅の間北側に、願得寺があります。

願得寺は、巨樹の茂る大きな寺院で、普賢寺古梵宮という古跡を蓮如が真宗念仏弘通の道場としたことに始まります。本堂、鐘楼、山門は大阪府の有形文化財に指定され、玄関、書院、客間、太鼓楼は国の有形文化財です。墓地には、第44代内閣総理大臣幣原喜重郎を輩出した幣原家など門真に縁の深い人々の

願得寺



墓があり、幹周り5mを超えるクスノキ等の巨樹と相まって、当寺が培ってきたものの重みを感じます。

では、門真市のおすすめスポットを教えてくださいませんか。

まずは、薫蓋クスがお勧めです。三島神社の境内にある樹齢1千年といわれるクスノキの巨樹で、大阪府にわずか4件しかない国指定の樹木の天然記念物の1つです。薫蓋という名称は、左少将千種有文の歌「薫蓋樟 村雨の雨やどりせし唐土の 松にとらぬ楠ぞこのくす」から採っており、歌碑が根元に建てられています。幹周り12.5m、樹高は約25mで、いかにも雄大な薫るきぬがさというにふさわしい樹形をしており、地元では「薫蓋樟」の名称で親しまれています。



薫蓋クス

葶島のクス



楠は、市の木にも指定されていますよね。

はい、市内の神社仏閣など各所でその雄姿を見ることができ、広く市民に親しまれています。薫蓋クスのほかに、長谷川邸内にある推定樹齢400年の巨樹で大阪府指定天然記念物の「葶島のクス」など有名です。

他にお勧めスポットはありますか。

春でしたら、砂子水路の桜もお勧めです。500mの水路の兩岸に約200本のソメイヨシノが見事に咲きそろい、市内で一番の桜の名所です。「大阪みどりの百選」にも選ばれています。

シーズン中は、お弁当を広げたり、夜桜を見物したりと、大勢の花見客であふれます。休日には地元の砂子水路桜保存会のみなさんが舟を出し、水上からの桜見物を楽しむ人でにぎわいます。

また、砂子水路では、砂子水路桜保存会とNPO法人花だんごネットワークの協力のもと、市民のみなさんで水をきれいにする団子を投げ入れる取組も行っています。

砂子水路の桜



市民の手で、市の名所が守られているんですね。有名な「河内レンコン」の栽培に関しても、市民活動が盛んだとお聞きしましたが。

古代、河内には河内湖があり、ハスの産地として有名でした。大正9年に、北島の農家が加賀と岡山の新ナバスと呼ばれる高い品質のレンコンの導入に成功し、「河内レンコン」発展の基となりました。昭和5年には周辺を含め蓮根の総作付面積約300ha、150万貫(5,625t)の収穫があり、その販路は四国、九州、東京まで及び、門真市域は蓮根の一大産地になり、門真市域ばかりでなく、周辺市域でも広く栽培されるようになりました。

しかし、市街地化が進んだ現在、北島など市内の一部で栽培が続けられていますが、収穫は減少し、



蓮池



レンコンの収穫

どこか懐かしい風情の残る、蓮の花の広がった景色が失われつつありました。

こうした状況を打開し、門真の名産であるレンコンを広く市民に知ってもらおうと活動されているのが、1999年に発足した市民団体「門真レンコン発掘隊」です。河内レンコン伝統の「沈み堀り」を再現したり、蓮花鑑賞会・撮影会を開催したり、水路の清掃など、本市の懐かしい風景を残す取組を行っています。

なるほど、門真の伝統・文化を守りたいという住民の熱意が伝わってきますね。

こうした市民活動を支える市の取組について教えてくださいいただけますか。

こうした市民活動を支えるために、まず、市民からも要望の強かった市民利用施設の充実を図りました。高等学校の統合により閉校となった府立門真南高等学校の校地校舎を大阪府から取得し、平成19年5月に子育て支援、生涯学習、スポーツ振興、教職員の研修などのための新たな複合型公共施設「門真市民プラザ」として、再生整備しました。



門真市民プラザ



校舎には、子育て中の親子が集いお互いに交流できる「なかよし広場」、高齢者や障がい者など援護が必要な方からの相談を受ける「いきいきネット相談支援センター」、市民の学習活動や文化活動を支援するための場として「生涯学習センター」などを設置しています。

また、図書館や歴史資料の常設展示室を併設し、会議室や和室、IT視聴覚室などの貸室業務も行うなど、市民が気軽に足を運べるような工夫をしています。

体育館やグラウンドは、市民の心身の健全な育成と豊かな市民生活の向上を図るための施設として市民のみなさんに多目的に利用していただき好評を得ています。門真市民プラザでの市民による自主的な活動や交流を通して、本市の市民活動がさらに活性化し、その活動が地域に還元されることを期待しています。

なお、校舎の一部を防災備蓄庫としても活用しており、防災拠点としての役割も担っています。

市民の自主的な活動や交流の拠点を設置し、さらなる地域の活性化につなげているのですね。

市民活動の高まりとともに、市民との協働に関する取組も盛んだとお聞きしましたが、これについて教えてくださいいただけますか。

地方分権の進展により、住民に最も身近な基礎自治体である市町村の権限や責任が大きくなるとともに、少子高齢化による社会構造の変化や市民の価値観、ライフスタイルの変化などに伴う新たな公共的課題が発生しています。こうした新たな課題への対応は、行政だけではなく様々な分野で主体的な活動を育んでいる市民や市民団体、NPO等の協力が不可欠です。

門真市の中長期のまちづくりのあり方を示す「門真市都市ビジョン」（平成19年度策定）では、施策展開の一番目の視点として、「市民みんなの“力”の活用に重点をおきます」としています。そして、市民公益活動と協働のまちづくりを支援・推進するための指針として、平成20年10月に「門真市市民公益活動支援・協働指針～門真市における市民公益活動支

援及び協働のあり方～」を策定しました。

本指針では、門真市における現状の把握や分析を行い、そこから導かれた課題を踏まえた上で、めざすべき姿を「多くの市民参加による市民主役のまちづくり」を推進することにより地域の自立、自治意識が向上し、地域の生活をより豊かで実りあるものにしていくことと定義しています。

今後、本指針に沿って、協働のための環境を整え、市民公益活動と協働のまちづくりの推進を図っていきたくと思っています。

中町と幸福町では、市民協働のまちづくりに取り組まれているとお聞きしましたが、これについて教えていただけますか。

中町と幸福町では、市民の誰もが誇りに思える門真の中心（顔）として、「門真市全体の都市イメージを先導していくオンリーワンのまちづくり」を進めています。

まちづくりにあたっては、住民が住みたい・住み続けたいと思える、人に優しい、安心・快適なまちとなるよう、市民と協働のまちづくりに取り組んでおり、具体的な取組として、公募の皆さんによる市民会議より提案をいただき、専門的な立場から有識者が検討を行いました。

市民会議では、グループに分かれて、実際に中町、幸福町を歩き、各自の視点で道路や公園、街並みなどについて気づいたことに対して、ご意見をいただきました。行政の視点からだけでは気づけなかったご意見も多々あり、非常に有意義なものになりました。また、住民からの視点からだけでなく、第三者の視点でのアドバイスをいただくために、近畿大学大学院の学生にも会議に加わっていただきました。



まちづくり市民会議の様子



あらゆる視点から意見を交換することにより、地域を支える皆さんの声を反映させた、オンリーワンの構想をとりまとめることができました。

市民とともに考え、あらゆる視点からの意見を反映させたまちづくりを進められているのですね。最後になりますが、今後の抱負をお願いします。

はい。少子高齢化の進展や、駅前等のにぎわいや市民のまちへの誇りと愛着の回復など、様々な課題を抱える中で、市の資源を活かしたまちづくりや、持続可能なまちの形成が求められています。これらを実現するためには、市民との協働はもちろんですが、企業との協働も欠かせません。

産業振興という観点からも、これから積極的に取り組んでいくべき課題だと考えており、昨年から市内企業の訪問や、アンケート調査を実施しています。企業からみたまちの問題点や要望、どのような協働が市にとって最も望ましいかなどについて検討しています。

企業訪問の様子



今後も、こうした取組を引き続き行い、市民との協働、企業との協働を発展させ、都市ビジョンの市民・企業、行政の3者での協働につなげていき、本市の将来都市像である「活力あるまちなか※創造都市・門真」の実現へと取り組んでいきたいと思えます。

※まちなか：まちの中の暮らしや産業の営みなど人間生活の全体を包括する地域を指す。

市民との協働で、まちの特性を活かしたまちづくりに一層躍進されることを期待しています。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。